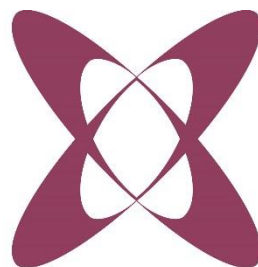


東北福祉大学

ボランティア学習による21世紀型市民の育成



東北福祉大学
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

地域創生推進センター 地域創生推進室
渡辺 信也

- 平成5年 「福祉ボランティア活動Ⅰ～Ⅳ」ボランティアの単位化を開始
平成10年 『ボランティアセンター』の設立・ボランティア委員会の設置
平成17年 『地域減災センター』の設置
平成22年 ボランティアセンター（特色GP）・地域減災センター（現代GP）・
子ども育みプランナー育成推進機構（現代GP）、学生支援GPセンターの
4部署が合併し、『学生生活支援センター ボランティア支援課』を設置
令和2年 ボランティア支援課・防災士研修室など数部署を合併し、
『地域創生推進センター 地域創生推進室』へ名称変更

【具体的取組】

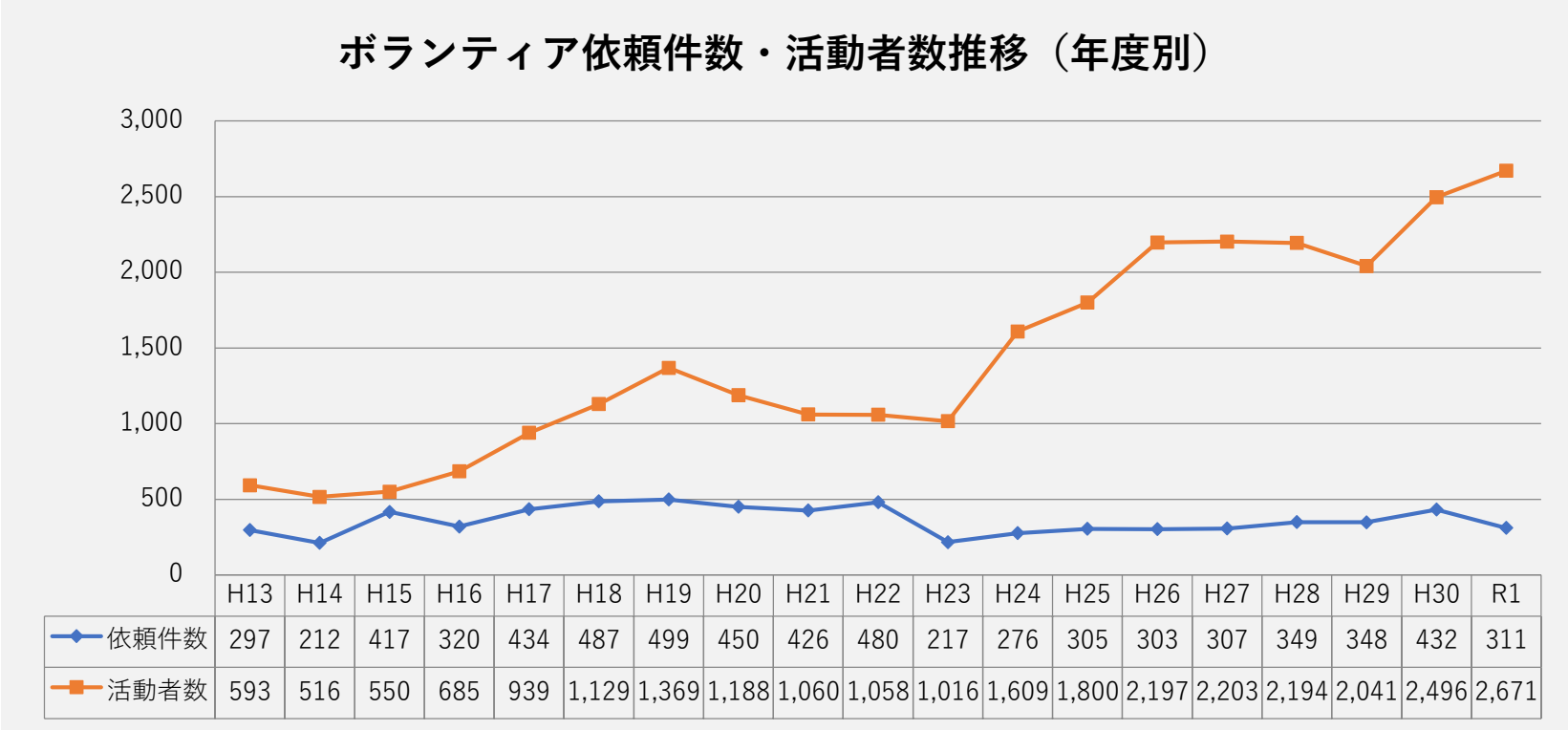
- ボランティア学習の充実
- ボランティア依頼（個人・団体）や市民活動に関する情報の収集・提供
- 地域社会との連携協働・ネットワークの構築
- 相談窓口の常設化
- ボランティアフォーラム・イベントの開催
- TKK3大学（東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学）連携プロジェクト
- 社会貢献学会の運営 など

【表彰関係】

- 善行青少年等内閣官房長官表彰（H14）
- 総務省消防庁「第11回防災まちづくり大賞」
一般部門で総務大臣賞（H18）
- 防災功労者内閣総理大臣表彰（H19）
- ボランティア功労者厚生労働大臣表彰（H21）等



■ 地域創生推進室を利用し、各種活動を行なった学生（延べ人数）



※災害ボランティア活動者数は含まず

2019年度（令和元年度）

地域創生推進室利用者数：2,671名（2020年3月末日現在）

自発的に約8割の学生が何らかのボランティア活動に参加

※令和2年度からは新型コロナウイルスの影響で活動禁止のため記録なし。

学生がボランティア活動に積極的に参加する



学生と教職員が一緒に考えあい、汗をながす

学生目線で事業を実施

教育効果が出る活動を推進する

学生の相談・意見はきちんと対応する

学生の成果は、『学生の成果』

事例 1 : 災害ボランティア活動

■ 被災地でのボランティア活動

- ・ **平成7年 阪神淡路大震災**
- ・ 平成9年 日本海重油流出事故
- ・ 平成10年 那須水害
- ・ 平成12年 北海道有珠山噴火
- ・ 平成12年 三宅島噴火
- ・ 平成15年 宮城県北部連続地震
- ・ 平成16年 新潟県中越地震
- ・ 平成19年 新潟県中越沖地震
- ・ 平成20年 岩手・宮城内陸地震
- ・ **平成23年 東日本大震災**
- ・ 平成26年 山形県南陽市豪雨水害
- ・ 平成27年 関東・東北豪雨水害
- ・ 平成28年 熊本地震
- ・ 平成30年 平成30年7月豪雨水害
- ・ **令和元年 令和元年東日本台風**

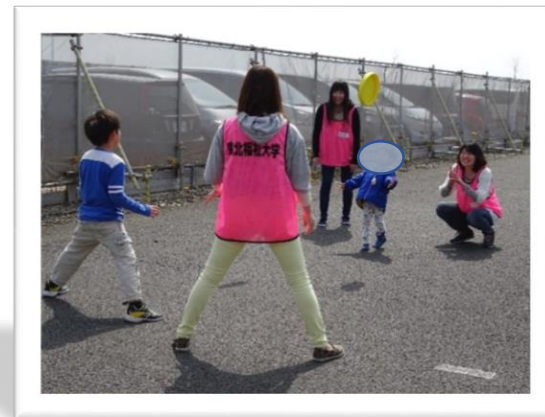


※「令和元年東日本台風」
災害ボランティアの様子

本学では、
被災地にプレハブや活動拠点を
置いて学生・教職員で活動。

東日本大震災での本学のボランティア活動

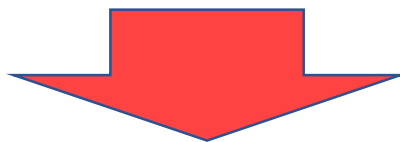
- ◆ 14市町
【釜石市、高田市～山元町】
- ◆ 104件
【避難所のお世話、子どもの遊び相手、
高齢者福祉仮設住宅での話し相手etc】
- ◆ **延べ6,287人(学生・教職員)**
【令和2年3月31日現在】



■これまでの復旧・復興後の特徴



各個人・団体が被害の風化をさせないための取組を行わなければならない。



**『防災・減災教育』を充実させ、
子どものときから意識をつけることが大事。**

『遊びながら体験し、学ぶことで記憶にのこす』

事例 2 : 他大学連携

取組名称：防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開
構成大学：東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学

取組概要・目的

3大学が連携し、防災・減災や社会環境及びボランティアに関する高度かつ実践的教育のための大学間連携とするため、専門教育課程としての「学び合い」、課外活動としての「分かち合い」、災害時に備えた実践訓練とバックアップシステムとしての「助け合い」を展開し、学生の学士力向上及び各大学の活性化、危機管理力向上を目指します。

主な取組内容

- 「社会貢献活動支援士」(仮称)の資格制度の立ち上げ
- 遠隔授業システムを活用した、社会貢献に関する専門教育プログラムの構築
- 共同テキスト、教材の開発
- ボランティア活動を中心とした課外活動の実施
- 災害時の円滑な総合的大学間連携システムの構築
- 広域ネットワーク、全国展開のボランティアネットワークの構築

期待される効果

3つの「合い」で、地域の安心・安全な地域づくり(地域貢献)を担うことができる人材育成の実現

■3大学連携イメージ図 ■



各大学が3つの「合い」連携センターを設置し、プロジェクトを推進



TKK3大学連携プロジェクト

防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開

東日本大震災から10年



未来へ思いを紡ぐ 大学生プロジェクト

被災地の過去・現在の学びを深め

新たな10年に向けての“提言”に取り組もう

趣旨説明



11 住み続けられる
まちづくりを



- 東日本大震災や各地で発生した災害で復興支援活動にかかわってきた学生たちの知見・想いを活かし、東日本大震災の被災地の今を伝え、次の10年に向けて発信する。
- 東北の復興支援活動において見えてきた課題、身についた知見、未来へ届けたい想いなどを共有し、大学生の視点を活かした新たな防災・減災事業を話し合う学生たちの場とする。
- 東日本大震災から10年の節目だけではなく、今後も長く続けることができるネットワーク形成につなげる。



全国からメンバーが集まっています

東北学院大学

工学院大学

東京家政大学

東海大学

清泉女学院大学

兵庫県立大学

大阪府立大学

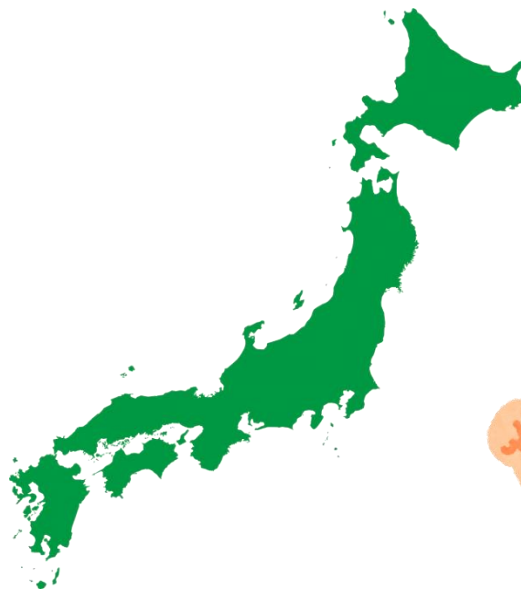
桃山教育学院大学

神戸学院大学

香川大学

九州ルーテル学院大学

東北福祉大学



約70名



資料2を参照：
現在も募集中です！
興味ある学生へご案内ください。



学生のボランティア活動

→自分の可能性に気づき、どのような関心を持ち、どのように社会と関わり、よりよい人生を送り、考えるきっかけのひとつに



自分にもできるかも？

これは楽しいな～

関心あるかも！

こんな活動してみたい

どうすればできるのか？

まず何をすればよいのかな？

この問題ってどうなってるのだろう？

調べてみよう！

共感してくれる人はいるだろうか

とりあえずやってみよう！



持続可能な社会を
共に創造することにつながる





東北福祉大学

TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

本学は「行学一如」を教育理念とし、福祉社会を担う人材を養成しています。
その教育方針として「自立（自律）した市民の育成」を掲げ全学的に取り組んでいます。

ボランティアの取組概要

平成5年 全国で初めてボランティア活動
のカリキュラム化

平成10年 ボランティアセンター
(現在：地域創生推進室) を設立

文部科学省 特色GP・現代GP・
学生支援GP・戦略GPを採択

令和元年度ボランティア活動の
延べコーディネーター数
(活動者2,670名、2020年3月現在)

他大学との連携
(ボランティア活動の協働、復興支援活動、
TKK3大学連携事業、単位互換 等)

本学学生ボランティア団体
(ボランティア系サークル63団体、
3,269名在籍、2020年3月現在)

災害時（有事）のボランティア活動
※東日本大震災活動者延べ数
6,287名（発災～2020年3月現在）

防災減災教育事業

経験と研究をいかし、宮城県内だけでなく東京や全国各地のイベントや町内会、各学校
に学生ボランティアを中心とした「減災・防災教育」を実施しています。

東北福祉大学で考案された
エコノミークラス症候群予防
体操「さんあい体操」



エコノミークラス症候群の予防を目的として考案され、東日本大震災で宮城県内の避難所のほとんどで実施した。

減災クイズで楽しく
防災知識を学ぶ



減災クイズでは、学生たちが中心となって考案した〇×式で答えてもらう減災クイズを出題し、子どもたちは楽しみながら減災・防災知識を学ぶ内容になっている。

減災カルタ・スゴロク大会



減災カルタとスゴロクでは楽しみながら減災・防災知識を深める内容となっている。

みんな一緒、避難行動
要支援者避難リレー！



避難行動要支援者（高齢者や障がい者）を支援しながら避難することを競技とし、迅速かつ丁寧に助け合いながら避難するということを学び、バリアフリーへの理解も深められる。

準備はできた？
災害時借り物競走



避難する際に、問題札から非常持ち出し品として必要と思われるものを選んでゴールすることで、それぞれが何を必要とするか考えながら選ぶところがポイントになっている。

防災レンジャーショー



防災レンジャーは子どもたちに減災・防災の知識を分かりやすく教えることを目的に、学生たちが考案し、結成した。

東北福祉大学 地域創生推進センター 地域創生推進室

(ボランティアの依頼・相談等はこちらへご連絡ください)

宮城県仙台市青葉区国見1-8-1 TEL: 022-717-3321 HP: www.tfu.ac.jp/volunt E-mail: volunt@tfu-mail.tfu.ac.jp



2 311メディアネット 河北新報社が展開する防災の巡回ワークショップ「むすび塾」を共催した全国の地方紙、放送局（地図参照）が参加するネットワーク。「共催のつながりを生かし、連携して防災機運を盛り上げよう」と各社が記事を持ち寄り、東日本大震災の発生日前後に共通タイトルの特集や連載、番組を組む。今年が3回目。

記者の視点 身を守る行動を促す

防災レンジャーは最後に「自分と家族の命を守れる人になって」と叫ぶ。学生の多くは小学生の頃に震災を経験した。楽しくかつ真剣に運動会を運営する姿は、将来を担う小学生に教訓と備えの大切さを伝える熱意にあふれ、頼もしい。（河北新報・須藤宣毅）

311 メディアネット いのちと地域を守る2020

① 東北福祉大 防災運動会

競技 備え学ぶ機会に



ボールを水に見立てたバケツリレーでチームワークを競う児童たち＝岩沼市玉浦小

将来、地域で起こりうる災害に備え、犠牲者を出さない情報や知恵を発信する。それが地域に根差した報道機関の使命だろう。備えの意識と行動は、過去の災害や他地域の教訓を「わがこと」として捉えることで養われる。「いのちと地域を守る」という誓いの下、連携する「311メディアネット」の参加社が、各地で防災・減災に取り組む個人や団体の活動と想いを報告する。（12回続き）

「頑張れー」。岩沼市玉浦小で2月19日、防災運動会があり、体育館に声援が響いた。競技の一つは「災害時借り物競走」。児童たちはラジオ、懐中電灯、水、缶詰など被災時に役立つものが散らばるブルーシートに駆け寄ると、お題の品物を見つけ出し、非常持ち出し袋に入れた。

運営したのはボランティア活動と防災・減災教育に翔史さん（20）は「仲間が増

メモ 東北福祉大は1993年度にボランティア活動をカリキュラム化した。阪神・淡路大震災、東日本大震災などで支援活動を展開。2009年度には工学院大（東京）、神戸学院大と防災・減災、ボランティア分野で社会貢献できる人材育成の連携事業を始めた。

えて心強い。子どもたちにとって、運動会が備えの重要性を知るきっかけになればうれしい」と話す。

プログラムは開催する学校などと相談して決める。玉浦小の児童は、防災知識を問う〇×クイズ、ボールを水に見立てたバケツリレーにも挑戦。ヒーローが自然災害を引き起こす悪の化身と戦う防災レンジャーショーも楽しんだ。

震災の被災地支援のため、宮城県を訪れた神戸学院大の学生6人も運営に加わった。3年の井手口健司さん（21）は、シヨウの出来栄えに「自分の大学よりも台本と演技の質が高い。子どもたちの反応も良かった」と刺激を受けていた。

19年度は栃木、茨城両県、東京都でも実施。学生を指導する東北福祉大ボランティア支援課主任の渡辺信也さん（39）は「今後は企業を対象にした防災教育にも力を入れる。学生には活動を通して相手の立場に立って考え、行動できる大人になってほしい」と期待する。



東日本大震災から10年

未来へ思いを紡ぐ大学生プロジェクト
“プロジェクトメンバー”募集中!!!被災地の過去・現在の学びを深め
新たな10年に向けての“提言”に取り組もう

TKK3大学連携プロジェクト(東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学)では、各大学の強みを活かした共同での防災・減災教育や、広域的な連携による被災時の相互援助を目的としてスタートし、東日本大震災のときにはこの連携に基づき支援活動を展開。現在は連携する大学が増え、協働活動を行っています。



2021年3月11日で東日本大震災から10年を迎えるにあたり、被災地の過去・現在の学びを深め、東日本大震災の被災地はもちろん、様々な被災地で活かせることはないかを探り、新たな10年に向けての“提言”に取り組む学生プロジェクトを企画しました！
本格的にプロジェクトを始動するにあたり、“プロジェクトメンバー”として参加する学生を募集します。
震災・防災・ボランティアや他大学学生との交流等に興味ある方必見です！
参加希望の学生は、下記の【申込方法】よりお申込みください。

プロジェクトについて

▶実施期間 2021年8月～2022年3月末

※主なプロジェクト進行は長期休暇中となります

▶対象 大学生・短大生

▶プロジェクト① テーマ【魅力ある地域づくり
～過去から学ぶ場づくり～】

各大学参加学生を複数グループに分け、テーマに沿って各グループで話し合いを進めていきます。
自分たちで学びを深めていく中で現地の方と触れ合う機会(オンラインでのヒアリング等)も予定しています。
専門分野の先生にもアドバイスをもらいながら、約半年の期間でグループで1つの形を作り上げていきます。
年度末には成果物の最終発表を予定しています。 ※最終発表は宮城または東京での開催を予定
(旅費は実費負担となります)

▶プロジェクト② テーマ【未来を紡ぐ担い手づくり】

各大学で行う震災関連や防災関連等の行事に参加しネットワークを拡げてもらい、自助・共助を身につけ
社会を担う人材となることを目的としたプロジェクトです。 ※プロジェクト①との同時進行を予定

開催予定行事例 ※新型コロナウイルスの状況により変更・中止となる可能性あり

- ・9月9日(木) 「宮城県復興支援活動」
- ・11月下旬(予定) 「地震防災訓練」
- ・2月中旬(予定) 「防災・社会貢献ディベート大会」
- ・3月5日(土)(予定) 「仙台市防災未来フォーラム2022」出展・発表



【申込方法】

以下のURLまたは右のQRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/D78gUfNkVWWM1TBo7>

TKK3大学連携プロジェクト(東北福祉大学 工学院大学 神戸学院大学)

神戸学院大学 TKK学び合い連携センター(社会連携グループ内)

TEL: 078-974-4042 Email: tkk-kgu@j.kobegakuin.ac.jp

主 催

お問い合わせ

